

委員及び専門調査員からの意見

委員	頁	意見の箇所	意見等及びその理由
鹿野委員	16	花崗岩	花崗閃緑斑岩ではないのか。
		風化・強風化について	通常風化でないので記載意味合いを示してほしい。 風化ではなく、破碎帯に見られる、破碎岩石・断層粘土・破碎細粒物などではないのか。
	17	濁水が発生し、徐々に増加	地下水は、断層破碎帯にしばしば流れ込む。とくに、断層粘土に関係することが多い。 恵那山トンネル掘削の資料を参考にすべき。
	20	トンネル上部の補強や、地山弱部を補強するなど	破碎帯の規模にも関係するが、断層破碎帯自体の補強は難しいと思われるが可能なのか。
	26	岩種B	岩種Eの方が適切ではないか。断層位破碎帯である。
	34	補助工法を適用せず、不安定地山に適さない掘削断面形状のまま施工していた	断層破碎帯の位置などは、文献資料で知ることができる。事前に位置を把握して施工すべきではないか。破碎帯は、まだ出現するので。 資料：佃 栄吉ほか（1993）2.5万分の1阿寺断層系ストリップマップ説明書、構造図（7）、地質調査所、39p
	全体		断層破碎帯の説明がない
		写真・調査データなどの充実	露頭の接写・断層粘土の接写・花崗閃緑岩の破碎部接写・断層の走向傾斜・破碎帯の幅・粘土帯の幅・小断層のスケッチほかの調査結果はあるのか。 これらによって、破碎帯の規模や、この東方に出現する破碎帯についての重要な資料となる。 現場調査による詳細なデータが、今後の工事に必要ではないか。

専門調査員	頁	意見の箇所	意見等及びその理由
吉田 専門調査員		地盤沈下発生原因および今後の対応について	<p>当初の対応に甘さがあったということを認めているようですので、その辺の改善がしっかりとなされるかどうかポイントだと思います。</p>
			<p>今後の対応としまして、鹿島建設、日本国土開発にも地質専門家はおられると思いますので、現地での地質状態の確認、とくにこのような脆弱な地層部分の広がり確認（今後また遭遇する可能性はないのかどうかなど）が事前の対策、リスク回避にも役立つと思います。</p>